

1. はじめに

1月に入ると冬至を過ぎたこともあり、徐々に日が長くなるが、相変わらずの寒気とは仲良くなれそうにない。新しいクラスが始まり、以前のクラスと比べて、課題の量や授業の内容が一段と難しくなった。課題に日々追われ、気が休まらない1月であったが、残りの留学生活が僅かと思うと最後まで走りぬかなければと思う1月であった。2022年の最初の1ヵ月について報告する。

2. 学習面

2021年10月から12月にかけてModuleCを受講し、最終試験に合格したことで、2022年1月から3月の10週間はModuleDを受講する。授業のレベルは格段に上がり、クラスメイトとのグループディスカッションなどではついていけないこともあるが、分からない時は質問したり、辞書を使うなどして、理解することに努めている。課題は以前のクラスに比べてより難しくなり、論文を読むだけでも時間がかかる。授業では論文中の筆者の意見を剽窃にならないように言い換える練習や、効率よく読むための方法などを教わっている。日常生活での会話はある程度のテンプレートがあるが、論文などは常に新しい表現や難しい単語が出てくるので、余計に難しく感じる。

日本だと授業中に質問する文化はないが、少人数ということもあり、授業では質問が飛び交う場面が多い。以前は質問するだけでも頭の中で一旦文法などを整理してというワンステップが必要だったが、徐々にそのような作業もなくなってきている。しかし、討論において相手の意見を聞いたあとに内容を理解することが出来たとしても、その後に賛成や反対の立場にたって自分の考えを簡潔な内容でかつ瞬時に伝えるのが苦手を感じるので、今後の伸びしろとする。

3. 生活面

イギリスでの生活も数か月が経つと、日常での行動がルーティン化され、以前はストレスに感じていたことも徐々に感じなくなってきた。日本だと路上を歩いている時に煙草の煙を意識することはほとんどないが、イギリスでは多くの人が路上喫煙をしており、マスク越しでも嫌気がさすことがある。しかし、このような状況もこれが当たり前と思うようになると、不愉快に感じなくなる。クラスメイトとはよくお互いの国について話すことがあり、多くの人が日本をお世辞ではないのかと思う程までに褒め称えることがある。初めの頃は軽く受け流していたが、イギリスでの生活に慣れてきたこの頃は、日本の国民性や文化に感銘を受ける。教室のエアコンが三菱製だったり、観光地に行った際に canon や SONY のカメラが好まれているのを知ると日本人として嬉しく感じる。日本車の TOYOTA や HONDA などのように一目瞭然のもの以外にも、現地に住んだからこそわかる細かい部分で日本の偉大さを感じる。また、それ以上に日本人の勤勉さやマナーの意識さは海外の人は驚いている。なぜ日本人は物凄く礼儀が正しいのかと聞かれて、何故日本人以外の人は礼儀が正しくないのかと以前は思っていたが、海外の人はフレンドリーなのである。逆を言えば、日本人が内気な性格なのである。一長一短かもしれないが、折角の長所は海外の人にとっても誇りに思えるようにありたい。

4. おわりに

残りの時間は僅かになってきているが、帰国までに少しでも多くのことを吸収していきたい。日本に帰国する日から逆算して、この日までにこれを終わらせるなどと目標を持って行動していく。

以上で1月分の月例報告を終了する。